



タラノア対話

国連気候変動ボン会議報告会 (SB48/APA1-5)

主催 : Climate Action Network Japan (CAN-Japan)

2018年6月14日 (木) 14:00-16:30

会場 : CIVI秋葉原 D405



認定NPO法人 地球環境市民会議 (CASA)

事務局 (国際交渉担当) 土田道代

タラノア対話って何？①

- 2015年COP21決定、パラ20
20. Decides to convene a **facilitative dialogue** among Parties **in 2018 to take stock of the collective efforts of Parties** in relation to progress towards the long-term goal referred to in Article 4, paragraph 1, of the Agreement **and to inform the preparation of nationally determined contributions** pursuant to Article 4, paragraph 8, of the Agreement;

タラノア対話って何②

- 2015年COP21決定、パラ20
 - 「促進的対話」を2018年に開催
 - 2つの目的
 - パリ協定4条1項にある長期目標(できるだけ早期にピークアウトし、その後は急激な排出削減をし、今世紀後半に人為的な排出と人為的な吸収をバランスさせる)に対して締約国全体でどこまで進んだかの検証・確認をするため
 - そしてパリ協定4条8項にある通り国別約束の準備に資するため
- 2016年、COP22決定1、パラ16
 - 2017年、COP22(モロッコ)・COP23(フィジー)両議長が「促進的対話」のデザインについて締約国と非公式協議を重ね、COPへ報告
- 2017年COP23決定
 - 「促進的対話」は「タラノア対話」と呼ばれることに
 - タラノア...「全員参加型で透明性が確保された対話」という意味
 - COP22(モロッコ)・COP23(フィジー)両議長による報告書は「タラノア対話アプローチ」として取りまとめられ、COP23はこれを「歓迎」。2018年1月から「タラノア対話」のプロセスがスタート。

パリ協定における目標水準引き上げ

①

パリ協定の下では

- 全ての国が「NDC」と呼ばれる国別約束を自国で策定し、国連に提出する。
- 機会は5年ごと: 最も直近の機会は2020年
- 新しく提出する目標:
 - 後戻り禁止
 - その国ができる最も高い水準の削減目標

パリ協定における目標水準引き上げ

②

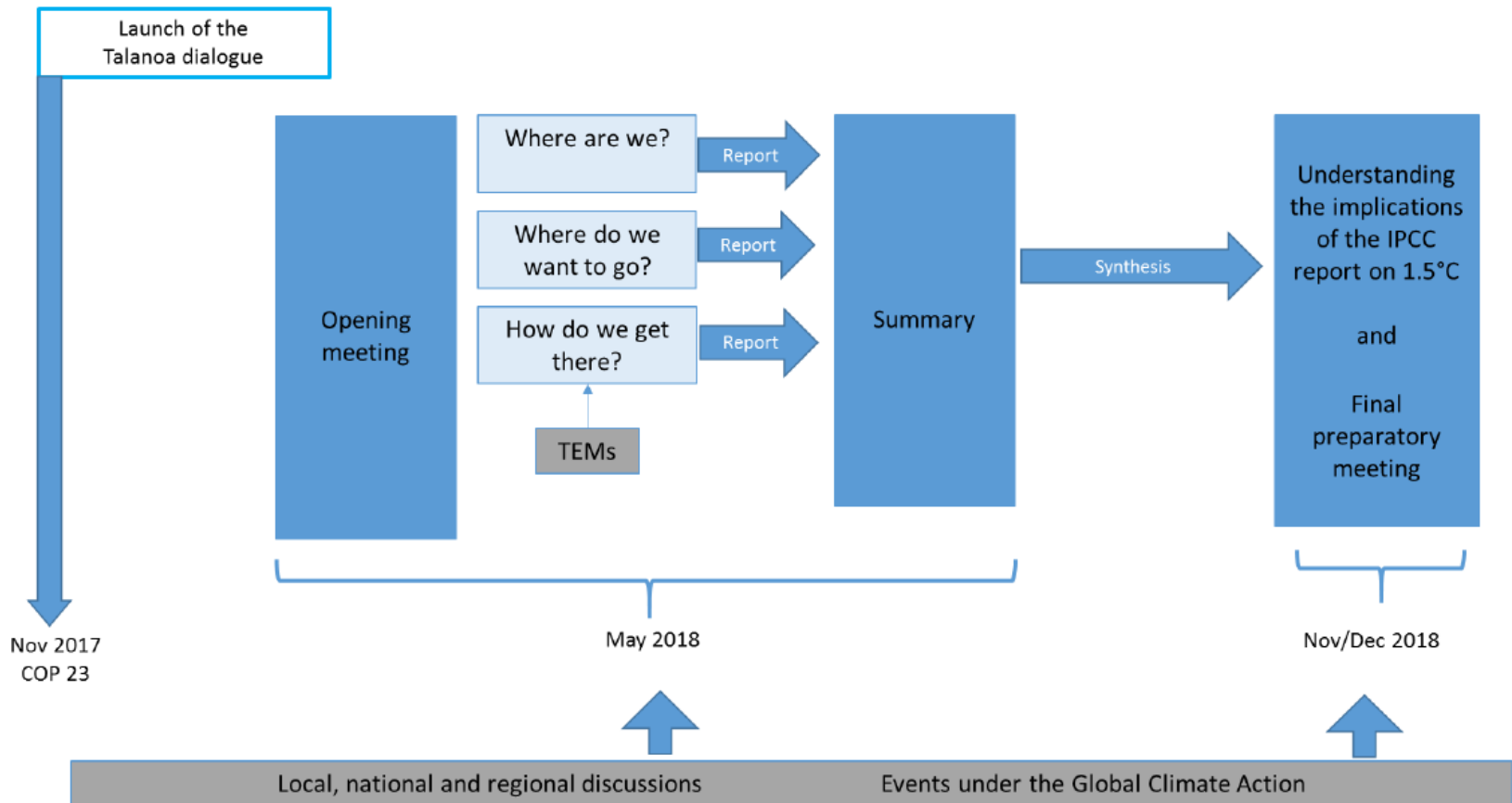
- パリ協定に合意する前から、2°C目標と各国が提出している削減目標との間に大きな乖離（ギャップ）があることが認識されていた。
- このため、パリ協定では、長期目標と、各国が提出する目標全体とを照らし合わせて、どこまで進捗しているかを検証する仕組みを盛り込んだ（**グローバル・ストックテイク**、第1回は**2023年**、以降**5年ごと**）
- 気候変動の影響が顕在化し、気候変動問題に取り組むための対策が急がれる中、2023年まで進捗を確認しないというのは「**遅い**」
- 「**グローバル・ストックテイク**」と「**タラノア対話**」、名称は違いますが、期待されていることは同じ。つまり、**削減目標の水準引き上げ**。

タラノア対話のデザイン①

- 設定された3つの質問
 - Question 1 –Where are we?
 - 我々はどこにいるのか？
 - Question 2 –Where do we want to go?
 - 我々はどこに行きたいのか？
 - Question 3 –How do we get there?
 - 我々はどうやってそこへたどり着くか？
- 2つのフェーズ
 - 準備フェーズ...2018年1月からCOP24まで
 - 政治フェーズ...COP24

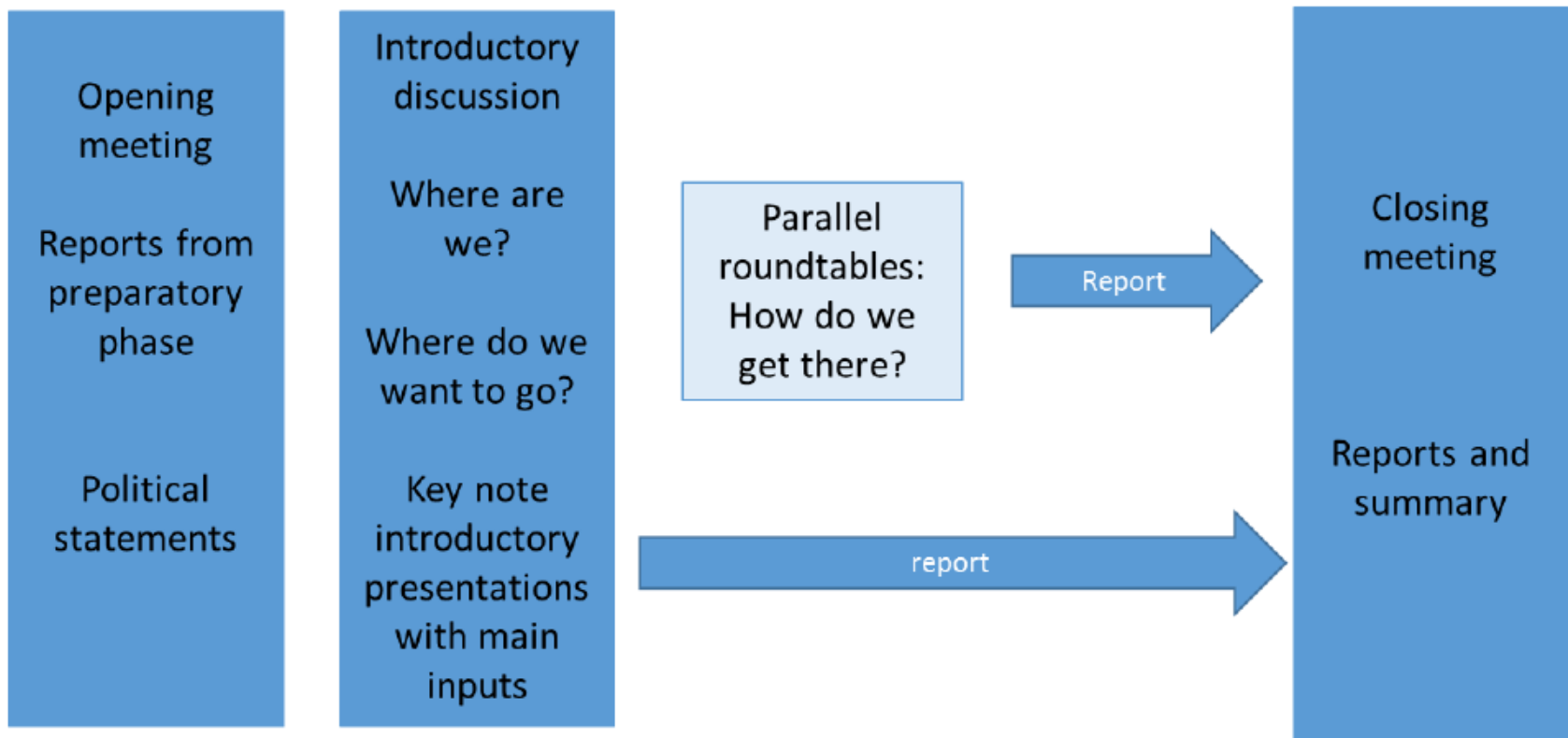
タラノア対話のデザイン②

Figure 1 - Preparatory phase



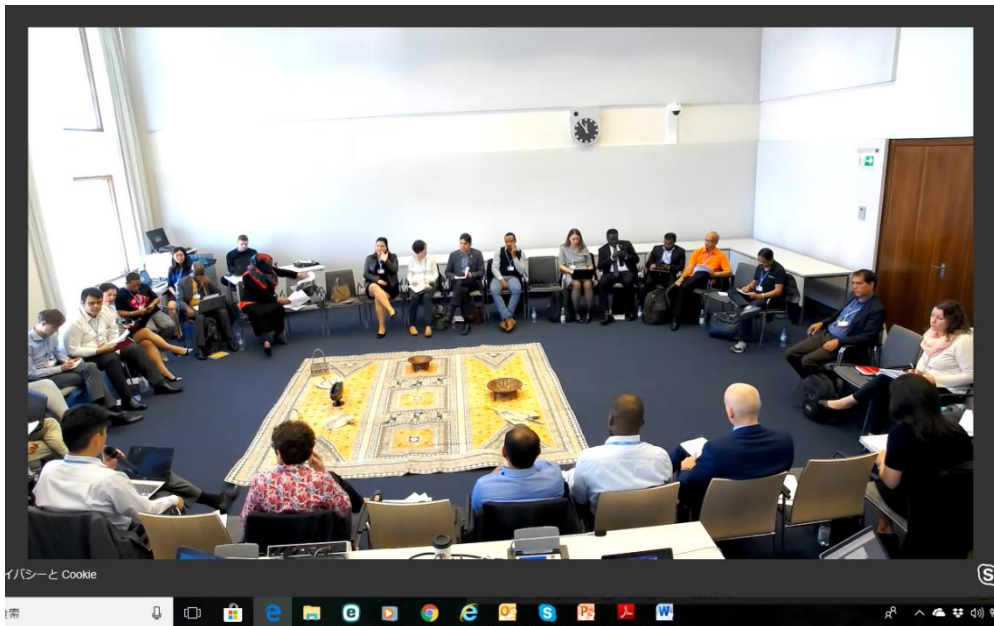
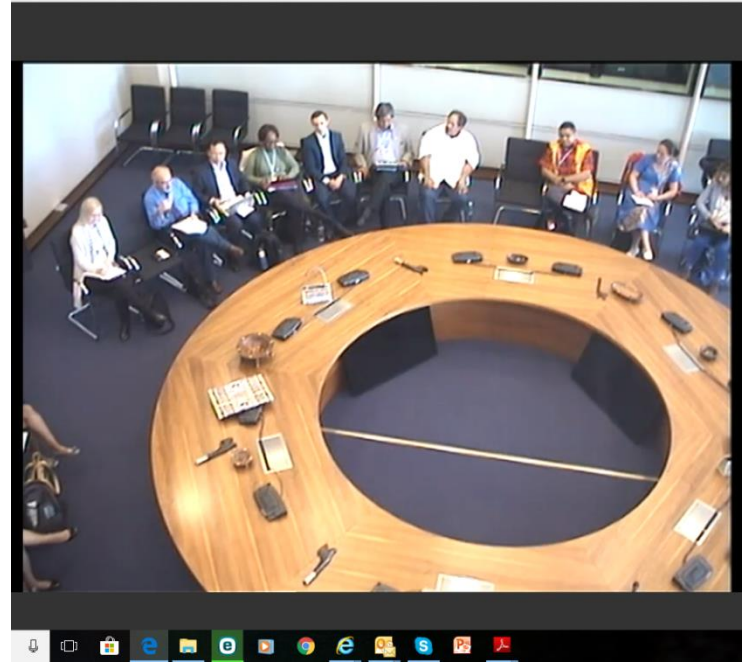
タラノア対話のデザイン③

Figure 2 - Political phase



タラノア対話 in ボン①

- 公式の場で初めて実施
- 期間中、4回開催された：
 - 5月2日（水）にオープニング
 - 5月6日（日）に7つのグループ（締約国＋非締約国）に分かれて、3つの質問に沿って対話を実施
「Sunday Talanoas」
 - 5月8日（火）にレポートバック
 - 5月9日（水）にクロージング



- 平場で、車座になってお互いの顔を見ながら話す。
- 相互の信頼の醸成

タラノア対話 in ボン②

- 9日のクロージングにおける締約国・締約国グループの発言を聴いて
 - タラノア対話への評価「very useful」
 - もはや誰も「2°C目標」と発言しない。「1.5°C目標」、
「パリ協定が掲げる長期の気温目標」
 - 「IPCCの1.5°C特別報告書」に対する期待
 - 「COP24後を見据えて」という発言や、「科学に整合する、野心的な国別約束」という発言、「2019年の国連事務総長主催のサミットへモメンタムをつなぐ」という発言も。

タラノア対話 in ボン③

- 日本国内のムードとの乖離はあまりに大きく、これをどう埋めるかが深刻な課題。
- 目標に対する締約国全体の進捗確認はもちろん大事
- 私たち日本の市民にとって、タラノア対話の経験が日本の排出目標の引き上げにつながり、実際に日本の排出が削減していくことが大事
 - 日本は現在の排出量で世界第5位、累積排出量でも第6位の大排出国
 - 残念ながら日本は加害国

ご静聴ありがとうございました

お問合せ・ご連絡先

地球環境市民会議(CASA)

TEL:06-6910-6301 FAX:06-6910-6302

E-mail: office@casa.bnet.jp

URL: <http://www.bnet.jp/casa/>